

令和4年7月25日

## 「文化部活動の地域移行に関する検討会議(案)」に関する意見書

全国中学校文化連盟

理事長 野口 由美子

日本の文化は、世界に誇れる数々の素晴らしい実績をもたらしていると考えます。

子どもたちにはこの素晴らしい日本の文化を継承し、さらに発展させてほしいと願っております。

中学校において、部活動は、運動部、文化部ともに、所属する子どもたちの成長において、非常に大きな役割を果たしてきたと理解しております。

しかし、現在日本の少子化の進行に伴い、学校が担ってきた部活動が、これまでと同じ形で継続していくことが困難な状況が生じました。

子どもの数が減り、学校数が減り、教員が減る中でこれまでと同じ数の部活動を運営していくことは困難となっています。それでも現状では、教員の努力で、何とか活動を続けております。保護者の方の期待に応えようと無理をして健康を損なう教員も出ています。

働き方改革のもと、教員が大変だからという理解だけでは解決が難しい現状が生じていることを、日本の国民の皆様様に誤解なく理解していただけるように、広報活動をしていただくことが必要であると考えます。

今回の提言は、これまで学校が担ってきた文化部の活動を地域に移行していこうというものになっています。

とても大きな変革であるため、一気に進めるには様々な困難が生じることと想像されます。特に令和5年度からの移行期間では、いろいろな課題が指摘されることと想像されますが、それでもできることから徐々に進めることが大切であると考えます。

子どもたちが安心して学び、文化の力を身につけ、その活動を楽しみ、発展させるための活動場所の確保、指導力のある人材の確保、教員の兼業兼職のシステムの構築、費用の問題など、実情に即した丁寧な対応を実効性のあるものにしていく必要があると思います。

全国中学校文化連盟は、文化部に所属するすべての子どもたちを応援し、輝ける場を提供することを目指して活動を続けてまいりました。

全国中学校総合文化祭においては、学校単位の参加に加えて、いくつかの学校の合同チームの参加や、地域での文化活動に参加する中学生の参加も大いに歓迎し、子どもたちの文化の力の育成に尽力して参りたいと考えております。

文化部の活動が学校から地域に移行しても変わることなく、子どもたちの健やかな成長を願って地域の方、教育委員会の方、学校関係者の方との連携を大切にまいります。

今回の大きな改革を国民皆さまの理解のもと、進めていただけますことを切に望みます。